



NAKAYAMA TOWN FIRE VOLUNTEER CORPS

巻頭特集 発災時に町民を守る「中山町消防団」の取り組み

東北地方太平洋沖地震が発生したとき、
町の消防団が動いて、発生当日のうちに住民全員の安否確認を終えました。
町の暮らしに根差した消防団活動が見直されつつあります。



消防団は、

町の様々な防災活動の担い手

〈Moriver 編集室〉 火災や災害が起きたときに、自主防衛組織として大活躍する消防団。中山町では町の誕生と同時期に中山町消防団として発足し、町を守ってきました。町民や行政とどのように連携し、町の暮らしを守っているのか、中山町消防団団長の秋葉憲太郎さんにお話を伺いました。

―消防団の構成員について教えてください。

秋葉 5分団12部体制で団長以下327名で構成されており、下は18歳、上は63歳で、平均年齢は34歳です。就いている職業は、農業、自営の方もいますが、サラリーマンが8割です。



中山町消防団団長 秋葉憲太郎さん

―主な活動内容は？

秋葉 予防消防活動を中心に各月に2回ずつ巡回広報、消防車の走行点検と消火機材の点検なども兼ねているわけです。また、有事の場合には、消火活動、人命救助、住民の避難誘導なども我々の役割です。特に中山町は大きな川が流れているので、出水のときの土の積みなど水防活動も行います。12月1日〜3月10日の期間には、消防団員による冬季日中常備隊を設置しており、常時5人の隊員が常駐して消火活動に当たるようにしています。勤務中は40年以上火災が出ていないんですよ。

―日頃の訓練にはどのようなものがありますか？

秋葉 消火活動で重要な操法訓練、協調性を培う基本動作訓練も行います。この基本動作訓練は、気を付け、休め、回れ右などの基本動作を迅速・確実・安全の3原則のつとて行うための訓練ですね。水防隊として土の積みやシート張りなどの訓練、情報伝達収集も兼ねた町の防災訓練時の通信訓練も行います。

―女性も活躍されているそうですね。
秋葉 平成26年2月に女性消防隊発



女性団員による心肺蘇生講習会



水害に備えて土の積み訓練



秋季消防演習で配られた備蓄食料



応急手当講習や冬期間独居老人宅訪問など女性団員は大活躍

足10周年を迎えました。現在、9名の女性消防隊に機能別消防隊という位置づけで活動していただいています。

―機能別消防隊とは？

秋葉 団員でありながら、火災の現場等に出動しない専門職のことで、主に予防消防活動や、冬期間の一人暮らし老人世帯の訪問を行っています。さらに、心肺蘇生法を含めた応急手当の講習指導も各種団体、事業者、学校などで指導している状況です。

消防団発足60周年の節目に初の全国大会出場へ

―山形県代表として全国大会に出場したそうですね。

秋葉 昨年の11月、東京で行われた第24回全国消防操法大会ポンプ車の部に出場させていただきました。消防団発足60周年で初めての全国大会です。



山形県の代表として全国大会に出場



全国大会でいただいた賞状

放水により標的を倒すまでのタイムと操作技術を競う競技で、結果は上位入賞を目指したものの、自分たちの競技開始直前の降雨の影響もあったのか、敢闘賞に終わりました。